

中部圏のイノベーション活性化に向けて

中経連は3月23日(金)に開催した総合政策会議において、イノベーション委員会(委員長:竹中副会長)にて取りまとめた報告書「中部圏のイノベーション活性化に向けて」を報告し、公表した。報告書の概要は以下のとおり。

1. はじめに

世界では、インターネット革命(1995年)以降、経済のグローバル化が一層進み、国際的な競争の激化や、先進国での製造業のシェアの低下・サービス産業化を伴う産業構造の変化が起こっている。加えて、日本においては、世界に先駆けて生産年齢人口の減少や地域の高齢化など、これまで経験したことのない社会問題に直面しつつあり、持続可能な社会・経済システムの構築を図っていかねばならない。

現在、このように大きな変革期を迎えていることに加えて、IoT、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった社会システムにも影響を及ぼす新たな共通基盤技術が発展してきており、これらの技術をさまざまな産業や社会に取り入れ、社会的課題を克服しつつ経済発展を遂げる必要がある。

2. 中部圏を取り巻く状況

(1) GDPの下振れリスク

中部5県のGDP74兆円(2014年)のうち、約20%が自動車関連であるが※1、シェアリングエコノミーの進展(ウーバーなどライドシェアリングサービスの普及)や、電動化を背景とする構成部品の転換、自動運転分野への他業種(グーグルなど)からの参入などにより、中長期的に数兆円規模の下振れリスクがある。このような状況の中で、経済規模を維持し持続的な発展を続けることは、日本全体の名目GDPが、1995年以降ほとんど伸びていないことを考えると、大変困難な課題であり、これまでの努力の延長線上に容易に描ける姿ではない。

※1：一次・二次波及効果を含め、約16兆円

(2) ソフトウェア産業集積状況

IoT/AIなどの進展に伴い、ソフトウェアの重要性が高まりつつあるが、中部圏のソフトウェア産業の集積度(従業員数ベース)は全国平均の約半分にとどまっている。

ソフトウェア企業へのヒアリングからは、中部圏ではIT人材、特にビッグデータ解析やAI活用に長けた人材が採れない、または、そうした人材の育成機能も不足しているといった問題が浮き彫りになっている。

(3) ベンチャー企業を取り巻く環境

ビジネスモデルや産業構造が変化していく中で、ベンチャー企業の重要性も高まりつつあるが、中部圏におけるベンチャーキャピタルの投資残高(86億円)は、東京都(1,297億円)の約7%程度の水準にとどまっており、ベンチャー企業の集積が非常に薄いことがわかる。

ベンチャー企業へのヒアリングからは、中部圏においてはベンチャー企業が活動しやすい制度や環境の整備が進んでいないという課題が抽出されている(次ページ5を参照)。

3. 中部圏でイノベーションが必要とされる理由

日本を含む先進国の製造業のシェアが減少し続ける中、中部圏では、製造業のシェアは1995年以降、ほぼ横ばいであり、これまで各企業が培ってきた技術力・ものづくり力を武器に見せている。本格的なIoT/AIの活用時代を迎える中、“ものづくり”に加えて“ことづくり”や“サービス化”など、自らがイノベーションに積極的に取り組むことで、時代の潮流をつくり出すことができれば、引き続き日本経済を牽引する中核地域として、また世界のビジネス潮流を牽引していく地域として、大きな影響力を及ぼすことができると期待される。

4. イノベーションの定義と注力領域

中経連では、イノベーションを「企業や起業家など経済活動の主体が、これまでとは異なる方法で、新たな経済的価値を生み出すこと」と定義し、この中で、中部圏の企業がこれまで得意としてきたタイプのイノベーション(例:カイゼン活動等による「既存事業の継続的な

改善)に加えて、「新規事業開発」や「既存事業の画期的な改革(新しいビジネスモデルの導入を含む)」に力を入れていくべきであると考えている。

5. 中部圏のイノベーションシステムと課題

中部圏におけるイノベーションを促進するための地域集合的な取り組みである「地域イノベーションシステム」の課題を抽出するため、大学・研究機関等のシーズ調査、企業・起業家・支援機関等へのヒアリングや検討部会を実施し、次の6点の課題を抽出した。

- (i) 危機感が薄い
- (ii) 気づき・共創のための交流・対流機能が不足している
- (iii) IT関連事業者やベンチャー企業の集積が薄い
- (iv) 新規事業開発のプロセスを実際にやってみる場、小さく失敗できる場が不足している
- (v) 新規事業開発に長けた人材や新しいタイプのIT人材※2が不足しており、そうした人材を企業や地域で育成する機能も弱い
- (vi) 支援機関相互の連携が不足しており中部圏のイノベーションシステム全体としての推進力が弱い

※2：ビッグデータ解析やAIの活用に長けた人材

6. 中部圏イノベーション促進プログラムについて

中経連では、全ての課題について中部圏の産学官金の機関と連携しながら対応していくが、まずは(i)、(ii)、(iv)、(v)の課題に対応するため「人材開発」と「事業開発」を中心としたプログラムを今年5月より順次開始する(詳細は中経連ホームページ参照)。

7. おわりに

急速な技術の進展により、ビジネス環境が目まぐるしく変化する中、IoTやAI、データの利活用での発想の転換や、それをもとにした新しいビジネスモデルの創出など、様々なタイプのイノベーションを触発していくことが極めて重要になっている。

このような環境の中、中部圏の強みである「ものづくり」を生かした活動だけでなく、「ことづくり」など新たな価値創造にも注力していくため、本報告書に記載したプログラムを具現化するとともに、新たな発想を持ったイノベーションドライバーが活躍できる地域のイノベーションシステムの整備に向け、関係機関と連携し、持続的に取り組んでいく。

【問い合わせ：イノベーション推進部】

